

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270301534		
法人名	株式会社 河原木電業		
事業所名	グループホーム智水寮		
所在地	青森県八戸市江陽2丁目18番8号		
自己評価作成日	平成22年10月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aokaigoiyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0270301534&amp;SCD=320">http://www.aokaigoiyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0270301534&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別性を重視したサービス展開により、自分らしい生活の実現に向け、柔軟な対応と支援に取り組んで
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所の基本理念、品質方針、品質目標を職員は正しく理解し、笑顔でもってサービスが提供されている、明るい事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で理念を唱和する事で理念を共有し、その実践につなげている。	独自の理念を作成し提示している。職員は毎朝唱和し、その意味を正しく理解しており、共有し、具体的ケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者、職員と共に、毎月実施の地域還元事業を通して、近隣との交流の機会を持っている。また、近隣の保育園等との交流も実施している。	町内会に加入しているが、活動が少ないため、独自に地域還元事業を設け、歩道の雪かきや草取り、清掃等を行い、積極的に交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向け、認知症の人の理解や支援方法を発信している。また事業所内にキャラバンメイトが2名おり事業所の力を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や家族、市職員からの意見やアドバイス等をサービス向上の為に活用している。	会議では利用者の近況報告、国の動向等が説明され、双方向的なディスカッションがなされ、外部評価の結果と同様、職員へ伝達し周知されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族環境問題等を抱えてる利用者もおり、話し合う機会を設けて取り組んでいる。	地域包括支援センターや高齢福祉課と、虐待防止等について協力して取り組んでいる。又、要望等が受け入れられやすいよう、地区グループホーム協会として連携を図る等工夫している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる行為を理解しており、身体拘束に関する勉強会を通して、各自の意識を高められる指導もなされている。	身体拘束防止マニュアルが整備されている。職員は勉強会、ミーティング、申し送り等で理解し、共通の認識の下ケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や事業所内の勉強会を通じ、虐待が見過ごされないように注意し、その防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加、事業所内での勉強会を実施し、学ぶ機会を持ち、必要な方への活用・支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は随時行うと共に、ホーム側からも利用者・家族に対し積極的に働きかけ、不安の解消を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議等の機会、また苦情要望受付書を設け、利用者・家族の意見を運営に反映させている。	「ご意見箱」は設置されていないが、苦情要望受付書が活用されているほか、利用者・家族等が面会時や日常の会話で、要望や意見を言える雰囲気作りをされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けると共に、職員同士で意見交換をし、サービス向上へ繋がるよう努めている。	職員間の日ごろのコミュニケーション、朝礼、申し送り、ミーティング等での提案、意見等は、職員会議で報告され、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	残業ゼロへの取り組みや交流会を多々行い、働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、各職員による勉強会の実施や研修会への参加機会を設けスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行事を共催したり、同業者との交流会への参加を通じ、情報交換やネットワーク作り、勉強会等を通じサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望等の情報収集を密に行い、スタッフ間で統一されたサービス提供することで、安心確保につなげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前より、自宅訪問や電話での相談を通し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集によりニーズを見極め、本人と家族の意向に沿ったサービスの提案・提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	互いに得意分野を持ち、利用者同士、又は職員と支えあう環境がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所と家族は、互いの情報交換を通じて、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅・墓参り・親類等への外出対応を通し、関係継続の支援に努めている。	自宅訪問、自宅の草取り、墓参り等積極的に外出することにより、親類、友人・知人等や馴染みの場所との関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、環境へ配慮すると共に、レクリエーション等を通してより良い関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も関係性を大切にし、必要に応じて本人・家族の支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、個別のサービス提供を行い、本人本位に近づくよう検討している。	職員は、一人ひとりの思い、希望、意向等について、常に関心を払い、日々の関わりの中で声掛けをし、言葉や表情から把握できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や暮らし方、生活環境やサービス利用の経過等を情報収集し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい過ごし方ができるよう嗜好や楽しめる作業等を把握し、その人の有する能力を最大限に活用できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を本人・家族へ説明し、意見交換しながら作成している。また3ヶ月毎のケース会議以外でも随時検討・変更し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、本人・家族・関係者と意見交換し、職員の気づき等も含め、本人本位で検討し作成されている。状況の変化、新たな要望に応じ、臨機応変に見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録や申し送りノートを活用し、職員間で情報を共有し、その実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能なニーズを模索し、多機能かつ個別的なサービスの提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの力が発揮できるよう、町内の散歩や地域還元事業、保育園等との交流機会を持ち、楽しみながら生活できるよう工夫し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望をもとに通院や訪問診療等を行い、適切な医療を受けられるよう支援している。また複数の医療機関との関係も築かれている。	本人・家族の意向を組み取り、かかりつけ医となっている。受診時、職員の付き添いは適宜実施されている。又、歯科の訪問診療もされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が配置されており、個々の利用者が適切な受診、看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は面会に出向いたり、電話での経過・状態把握を密にし、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族・医療機関と相談の上、事業所で出来る事を説明し、方針を共有し本人の支援に取り組んでいる。	ターミナルケアは対応していないが、本人・家族・医療機関と早い時期から話し合いがなされ、方針を共有して支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月のマニュアル確認や勉強会を実施するようにしている。また毎年、普通救命講習会に数人ずつ参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの確認や職員勉強会で災害時の対応を行っている。定期的に避難訓練の実施や近隣へも協力を呼びかける為に町内会総会等にも参加している。また民生委員より情報等も頂いている。	消防署の指導の下、年2回の避難訓練が実施されている。今後、スプリンクラーと通報装置の設置が予定されており、その機会に、更に近隣への協力を呼びかける予定となっている。	近隣の理解が得られ、予定通り協力体制が構築されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な声掛けをするようにし、スタッフ間で注意できるような環境を整えている。排泄や更衣時は特にプライバシーに配慮している。	日ごろから、職員同士が話しやすい環境を作りあげ、常に確認しあって、一人ひとりの人格やプライバシーが損なわれない支援がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	相手の反応を引き出せるような表現で働きかけ、常に選択できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが送れるよう、職員側からの強制や言葉での抑制を行わず、一人ひとりのペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿った整容ができるように、本人の意向に合わせ対応し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりが好む内容、食事方法に合わせて提供している。食事の準備、片付けに関しても、それぞれの得意分野を活かしながら行っている。	長事は、利用者ど職員の話し合いにより、季節感たっぷりの内容であり、カロリー計算もされている。材料の魚を2種類から選んでもらったり、品数を増やして、食べたくないものを食べなくても、栄養不足にならないよう工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の状況に応じ、不足の際は補食、水分補給を随時行っている。毎週1回カロリー計算し、バランスを考慮したメニューを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の能力や状態に応じ、毎食後の口腔ケアの促しや誘導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、定時的な排泄の促し、介助、日中・夜間のオムツやトイレの使用を個別に合わせて自立に向けた支援をしている。	職員は、声掛け、排泄チェック表の活用等で、一人ひとりのサインを把握・共有し、個別の排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を勧めたり、偏食を無くすよう促し、下剤のコントロール等を個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	出来る限り希望に沿った時間やタイミングで対応している。入浴日以外も希望があれば対応している。	朝・昼・午後・夕と、一人ひとりの希望に沿った時間やタイミングで入浴が行われている。職員が一方的に決めず、利用者の意向を確認し、本人本位で実施されている。希望によって、回数を増やしたり、同性介助の配慮を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせた時間に就床していただき、不眠時は小上りでの臥床など、個々が思い思いの場所で休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、症状の変化や確認に努め支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活で得られる情報や家族の情報をもとに、趣味や特性を活かした生活を提供し、外出支援や気分転換になるレクリエーションも提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に沿った対応を行っている。また家族との相談・協力を得て支援している。	本人の状況や天候に応じて、できる限り希望に沿い、散歩・買い物・ドライブ等積極的に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に対応している。希望時は所持し外出や買物時に使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかける支援は行われている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた装飾やカーテン・ブラインドの使用、施設内のクーラーやヒーターの使用等で管理し、居心地良く過せるよう工夫している。	社員寮をリフォームした建物であるが、季節感を取り入れた装飾が、玄関・廊下等にほどこされている。また、採光が適度に調節され、日中は音楽が流れ、居心地の良い空間が作られている。ペットとして小型犬がおり、人気者になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過せるように各場所にイスやベンチの設置、小上り、ソファの活用をし、居場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具の配置や装飾、仏壇の持参等、個別に工夫されている。	本人・家族と相談し、テレビやビデオ、仏壇等が置かれ、個別に工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが自分の能力を活かして、環境を活用できるように努めている。		